

< 気になるよそ様の数値 - キャッシュ・フロー対売上高比率(X3) - >

今回はキャッシュ・フロー対売上高比率(X3)です。計算式は、以下の通りです。

$$\text{キャッシュ・フロー対売上高比率(X3)} = (\text{当期利益} \pm \text{法人税等調整額} + \text{当期減価償却実施額} + \text{引当金増減額} - \text{株主配当金} - \text{役員賞与金}) / \text{売上高} \times 100$$

この指標のキャッシュ・フローにおいて、金額的に重要なのは、当期利益と当期減価償却実施額です。大雑把な言い方をすると、当期利益と当期減価償却実施額の大きさによってキャッシュ・フローが決まるということです。

右図(図2)を見ていただくと、まず、他の収益性の比率と同様に、山が三つあります。下限と上限と0付近です。0付近が多いのは、他の指標の影響があるからです。企業経営者になると赤字決算は避けたいとの考えがありますので、どうしても0付近が多くなります。収益性の比率で、0付近の数を見ても、売上高営業利益率(X1)は、4,894社、総資本経常利益率(X2)11,782社、キャッシュ・フロー対売上高比率(X3)4,602社となっています。企業経営者になると、営業利益も経常利益もプラスにしたいのですが、数値から読みとれるのは、経常利益に関心がいっているよう

です。
 また、建設会社においては、当期減価償却実施額が多く、経常利益をプラスにするとキャッシュ・フローも大きくなるようです。そのため、この指標は、比較的よい数値が出ています。収益性の比率でマイナスの会社数を見ても、売上高営業利益率(X1)は、59,720社、総資本経常利益率(X2)46,863社、キャッシュ・フロー対売上高比率(X3)33,182社となっています。グラフをみても数値がプラスの企業が多く、数値0から比較的なだらかに減少しています。上限の企業数も多くなっています。区分の関係から6.7%以上となりませんが、6.558%以上の会社が30,458社ありました。全体の18.14%です。平均点は1.860%です。

日本の建設会社は、総資産に占める固定資産の割合が大きいと言われています。キャッシュ・フロー対売上高比率(X3)が他の収益性の比率に比べよい数値になっているのは、このことを如実に示してい

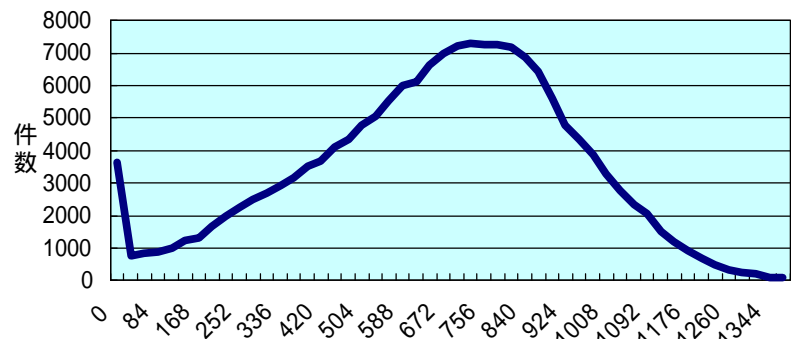
ます。しかし、この指標がよいといって喜んではいられません。固定資産が多いと、一般的には、安定性の比率や健全性の比率を悪くさせます。設備投資によるリターンをしっかりと見極め、減価償却費に頼らずこの指標をよくしたいものです。

WISENET編集部 松村 清(税理士)

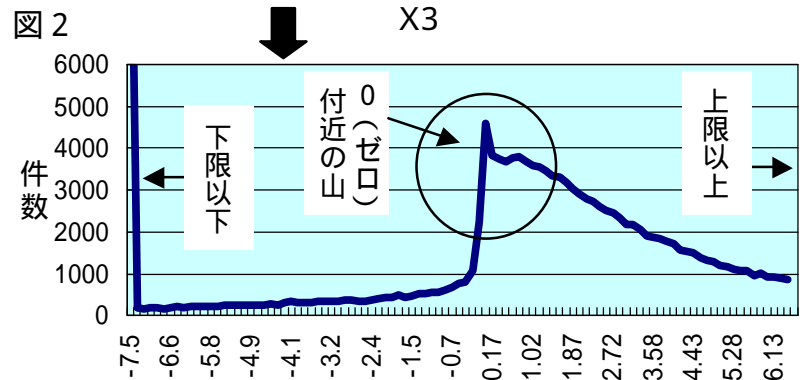


* 下図は平成12年5月1日現在新経審で公表されていた167,925社の評点分布図です。

図1 評点 Y(50分割)



営業利益、経常利益をプラスにしようとした結果、
 キャッシュ・フロー対売上高比率も下図のようなグラフに



お知らせ: 2001年3月号より「Wise FAXNET」メール配信を始めます。メール配信をご希望の方は下記にメールアドレスをご記入ください。

メールアドレス []

Wisdom デモンストレーション希望(無償)
 資料請求(無償)

* すでにご注文をいただいているお客様にもこの案内は届いています。

今後「Wise FAXNET」送信不要

資料請求等は必要事項をご記入の上、
 FAXにて当社までご返送下さい。

FAX.0269-65-4745

下記にご連絡先をご記入下さい。ユーザー様で前回登録時と変更のない場合には、貴社名と担当者名、TELのみをご記入下さい。

貴社名	
ご担当者様	ご役職・部署名
ご住所 〒	
TEL	FAX

「Wise FAXNET」では経審対策/書類作成システム「Wisdom(ウイズダム)」ユーザー様に経審に関する最新情報、経審対策のワンポイントを紹介、月一回の発行となります。内容に関するお問い合わせ、バックナンバーの請求は弊社までご連絡下さい。